

## 関係団体の意見と対応

【平成19年度連携排砂計画及び平成19年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>① 今後の宇奈月ダムの堆砂形状を踏まえ、漁場環境や漁業へ影響がより少ない排砂方法を検討してほしい。具体的には通砂基準の引き下げによる複数回排砂の検討をお願いしたい。</p>	<p>① 平成19年1月16日に開催された第26回黒部川ダム排砂評価委員会において、今年度の連携排砂及び連携通砂実施に対して「排砂通砂の年4回の実施はこれまでの最高回数であった。 このような状況で、出し平ダムにおいては目標排砂量に対し実績排砂量が相当量超過したが、水質、底質および生物相の環境調査結果をみる限り、連携排砂・通砂により一時的な環境の変化はあるものの、洪水時と比較しても大きな影響を及ぼしたとは考えられない。」との評価をいただいている。 また、今後の連携排砂および連携通砂の方法については以下のご意見をいただいている。</p> <p>○出し平ダムにおいて、目標排砂量に対し実績排砂量が相当量超過したことに鑑み、土砂量の把握精度をさらに向上するよう努めること。</p>

【平成19年度連携排砂計画及び平成18年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体		<p>○試験通砂については、来年度も継続して実施し、その効果について確実に把握するよう努めること。</p> <p>評価委員会のご意見を踏まえ本年度は、今後の通砂基準の見直しの検討資料として、通砂基準を引き下げた試験通砂を昨年度に引き続き実施し、その効果把握に努める計画である。</p>

【平成19年度連携排砂計画及び平成18年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>② 流木による漁業への影響が顕著になりつつある中、排砂実施機関においても、対応案について検討願いたい。</p> <p>③ 出し平ダムの上流域に堆積している土砂に対する総合的な対策を具体的に検討して欲しい。</p>	<p>② これまでも出し平ダム及び宇奈月ダムのダム湖に出・洪水時に流入してくる流木については、排砂期間中の排砂及び通砂に至らない出水後に流木を回収している。 また、出・洪水時に河道内に堆積した流木については、従来から次回の出・洪水時に下流に流出し、被害を及ぼすことが想定されることから河道内に堆積した流木の回収を積極的に行っており、今後も上流からダム湖内に流入し浮遊する流木及び河川管理上支障のある河道内に堆積した流木の回収に引き続き努めて参りたい。</p> <p>③ 黒部川上流域については、崩壊箇所が約7,000箇所、その流域面積に対する比率はおよそ5%にも達し、豪雨時には崩壊した多量の土砂が川に流れ込む状況です。それらの状況に対し、上流域において砂防堰堤工事等を進めており、今後とも総合的な土砂管理を行うべくこれらの事業を鋭意実施して参りたい。</p>

【平成19年度連携排砂計画及び平成19年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	④ 連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量の把握に今後とも努めて欲しい。	<p>④ 土砂収支について一定の精度を持ったシミュレーションを行うにあたっては、シミュレーションの入力条件及びシミュレーション結果と排砂中及び洪水時の土砂モニタリングによる実測値との検証が重要であるが、現在の技術では洪水時の観測が困難な状況にある。</p> <p>このように土砂動態の測定技術の飛躍的な向上は難しいものではあるが、土砂動態把握のため、平成16年以降、排砂期間前の5月にダム貯水池測量を実施しており、また、より土砂動態を詳細に把握すべく、平成18年度からは通砂後と9月にも新たに貯水池測量を実施している。</p> <p>また、黒部川河口より海へと流出した土砂量および土砂の質、海での拡散状況を把握するため、排砂・通砂実施時のヘリによる空撮、海域での採水等を実施しているところであり更なる精度向上に向けて調査検討をして参りたい。</p>

【平成19年度連携排砂計画及び平成19年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	⑤ 排砂と魚の生息への影響に対する因果関係について、今後も調査地点、方法を含め検討して欲しい。	⑤ これまで専門家の指導ならびに海面漁業関係団体と相談しながら、魚の生息環境の変化を把握するため、水質、底質、マクロベントス、プランクトンの調査を行ってきたところである。 本年度も例年実施している底質調査を予定しており、今後も魚の生息への影響に対する調査については、専門家の指導ならびに海面漁業関係団体と相談しながら調査して参りたい。

【平成19年度連携排砂計画及び平成19年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>⑥ 平成19年度の出し平ダムの目標排砂量が0.2万m<sup>3</sup>と非常に少ないため、平成6年12月河床高を割り込まないように排砂中の監視を徹底してほしい。</p>	<p>⑥ 排砂時の出水規模を種々想定したシミュレーションを実施し、実際の排砂時には出水に応じた運用を行うことにより、平成6年12月の河床高を割り込まないように努めて参りたい。 また、排砂実施中においては、今年度も下流域の水質の監視を行いながら排砂を実施して参りたい。</p>

【平成19年度連携排砂計画及び平成19年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>① 排砂実施機関は、排砂実施機関の「排砂ありき」の考えのもとに出される常識を疑うような評価委員会の評価を盾に排砂を正当化し実施してきたが、今年度からは「排砂以外のダムの堆積土砂除去方法を真剣に検討する組織」の設置と「排砂影響調査委員会」の復活を要望する。また、土砂管理協議会に黒部川内水面漁協を参画させることにより「加害者と受益者による」協議会から脱却し「被害者や流域住民を加えた」協議会に改めること。</p>	<p>① 連携排砂実施機関としては、地域の意見を聴取する場として、「黒部川土砂管理協議会」において流域住民代表として市町長にご参加いただいているほか、ホームページ、投書、直接お越し頂くなど、また、勉強会・説明会等の要望があればそれに応じるなど、様々な形で意見を伺う場を設けている。</p> <p>一方、黒部川ダム排砂評価委員会については、過去に設置された「黒部川出し平ダム排砂影響検討委員会」「出し平ダム排砂影響調査委員会」等の精神を引き継ぐ組織であり、水産学、環境、地質学、河川工学等の様々な分野の学識経験者より構成しており、連携排砂・連携通砂に関して、科学的・客観的な評価を頂く場として設置している。</p> <p>このように、今後とも、地域の皆様や学識経験者のご意見を伺いながら、下流の河川環境へ与える影響を軽減できるよう、排砂方法の改善に努めて参りたい。</p>

【平成19年度連携排砂計画及び平成19年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>② 19年度に出し平ダムから排砂が行われた場合、宇奈月ダムから大量の土砂が流下することは明らかである。その対策として、イシワ谷～音沢間、音沢～愛本間及び各橋梁間に水深4～6m、延長300～400mの淵を掘削造成し、流下土砂の捕捉に努められたい。また、黒部川の下立～河口間の流水域の石の粒径が細くなり、上下流の差が認められない箇所がかなり多く見受けられるので、定点観測を10箇所程度で実施し、魚族の生息環境に与える影響をシミュレーションされたい。</p>	<p>② 黒部川は洪水による河床変動が著しく、各所で堆積や洗掘が繰り返されており、人工的な流出土砂捕捉施設での効果は期待できないと考えられる。          また、河床の粒度形態の変化が魚族の生息環境に与える影響をシミュレーションすることは難しいと考えている。          黒部川の河川環境を保全創造するための取り組みとして、これまでも内水面漁業関係団体の意見を踏まえて、瀬、淵調査や下黒部橋上流に自然巨石や巨石ブロックを試験的に投入している。          今後も内水面漁協や専門家の意見を踏まえ、黒部川の河川環境を保全創造するための対策を評価委員会のご指導をいただくとともに関係機関等のご意見も伺いながら各種調査を実施して参りたい。</p>

【平成19年度連携排砂計画及び平成19年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>③ 排砂時における断水状態の「魚の避難場所」はサギ類の採餌場となったり、酸欠状態になるため、地下水等の揚水供給を行い、避難場所としての目的達成に努めること。</p> <p>④ ダム管理事務所等でモニターテレビを見ているも排砂の実態を把握理解できるわけではない。評価委員会や土砂管理協議会の委員は諸調査箇所への現地踏査をすべきである。そのためにも休憩が出来るように河川敷にテントの設営を配慮されたい。</p>	<p>③ 内水面漁協や専門家の意見を踏まえ、黒部川の河川環境を保全創造するための水源確保の方法について、関係機関等のご意見も伺いながら検討して参りたい。</p> <p>④ これまでも排砂中及び通砂中に、都合がつく委員には、現地にお越しいただき排砂及び通砂の状況を見ていただいているところである。さらに、ビデオ、写真撮影を行い、排砂中及び通砂中に、現地にお越しいただけなかった委員へ説明を行っている。また、排砂中とは別に現地視察会を開催するなど、委員の方々には、現地の状況を見ていただいているところである。排砂は自然現象である出洪水の発生に合わせて行うため、予め決まった日時で実施できるものではなく、委員の予定や都合を勘案すると委員全員が現地に集まることは困難な面があるが、できる限り現地踏査をしていただくようお願いしたい。また委員の方々には、諸調査箇所だけでなく幅広い範囲での現地踏査を行っていただきたいと考えており、テント設営までは考えていない。</p>

【平成19年度連携排砂計画及び平成19年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>⑤ 無作為による流域住民の排砂に対する意識調査を実施するとともに、排砂実施機関、評価委員会、土砂管理協議会、被害者団体、一般住民等による公開討論会、又はシンポジウムを開催されたい。</p>	<p>⑤ 連携排砂実施機関としては、地域の意見を聴取する場として、「黒部川土砂管理協議会」において流域住民代表として市町長にご参加いただいているほか、ホームページ、投書、直接お越し頂くなど、また、勉強会・説明会等の要望があればそれに応じるなど、様々な形で意見を伺う場を設けている。</p> <p>また、黒部川土砂管理協議会の開催にあたっては、これまでも内水面漁協をはじめ、海面漁業者、農業者等の関係団体に事前に土砂管理協議会資料等について説明の上意見を聞いており、それらの意見を土砂管理協議会に報告したうえで、審議、協議調整が図られている。</p> <p>排砂に関する団体は、内水面漁協、海面漁協、農業、その他多くの直接、間接の関係者の方々がおり、排砂評価委員会、土砂管理協議会を含め、現在の排砂の進め方については、長い時間をかけて多くの関係者の方々と話し合いをしながら作り上げてきたものであり、この進め方については、多くの関係者のご理解を得てきたものと考えている。</p>

【平成19年度連携排砂計画及び平成19年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	<p>① 出し平・宇奈月ダムの連携排砂の必要性と処置方法を、地域住民により深く周知され、理解と協力が得られるよう、常に関係市町村と連携を深めながら鋭意努力願いたい。</p> <p>② 出し平・宇奈月ダムの連携排砂時の合口用水路の取水停止と、豪雨時の危険水位による愛本堰堤取水停止の区別が下流域住民に周知できるような方法と対応を願いたい。</p>	<p>① 連携排砂実施機関としては、これまでも投書、来所者に対してはもとより、勉強会・説明会等の要望があればそれに応じるなど、関係市町のご協力を得ながら、様々な形で理解と協力が得られるように努めてきたところである。 今後とも、連携排砂、通砂について、地元自治体等とも相談しながら理解いただけるように努めて参りたい。</p> <p>② これまでも排砂期間前、連携排砂実施中、排砂評価委員会および土砂管理協議会開催時等機会あるごとに新聞折り込みや記者発表、事務所ホームページへの掲載等により広報に努めてきたところである。 また、連携排砂・通砂の実施中には、みらいテレビ行政コミュニティチャンネル(5ch)にて情報提供を行っている。 今後とも、連携排砂、通砂や取水停止期間の考え方等についても、よりご理解いただけるよう地元自治体等とも相談しながらさらに適切な広報に努めて参りたい。</p>

【平成19年度連携排砂計画及び平成19年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	<p>③ 天候の状態や農作業の时期的な影響を考慮し、連携排砂、連携通砂、豪雨時の停止と合口用水路の取水停止が連続し長期化しないような実施方法を検討願いたい。</p> <p>④ 農業関係団体において、4月から9月が農業用水の最も大切な灌漑期であり、農家の協力と理解が不可欠であることを十分認識願いたい。</p>	<p>③及び④ 排砂は、環境への影響を小さくするため、土砂変質を防止し、できるだけ自然の土砂流に近い形で排砂を行うことが必要であり、毎年排砂を確実に実施することが重要と考えている。</p> <p>通砂は排砂後の一定規模以上の出洪水発生時に、出洪水に伴い流入する土砂を貯水池内に貯めずに通過させるものであり、翌年度に行う排砂時の排砂量を減らし、環境に与える影響を低減させるとの観点から必要なものと考えている。</p> <p>排砂・通砂実施について今後ともご理解願いたい。</p> <p>また、これまでも農業用水の取水停止時間を出来るだけ短くするために、平成15年度より排砂実施期間中の6月上旬のダム運用水位を低めに抑え、一連の排砂作業に係る時間を短縮し、用水の取水停止時間を短縮する対策を講じてきた。</p> <p>また、平成17年度からは、黒部川沿岸土地改良区連合と調整し、特に長時間の断水が水稻の生育に影響を及ぼすと考えられる7月15日から31日の期間に排砂を実施する場合は、夜間においても取水再開が出来るよう河川の濁り状況で取水再開を判断できる様に基準を設け、取水停止時間の短縮を図ること等を計画した。</p> <p>今後とも、取水停止時間の短縮に向けた検討をして参りたい。</p>